

むくむく 農 感嘆で新そば満喫！ 秋満腹！

10月17日、JAひがしかわ（東川農協）の「わくわく 農 感嘆」で札幌市内の親子約30人がバスツアーで東川町を訪れ、新そばのそば打ち体験、「そばガレット」作りに挑戦しました。（株）農協観光（東京）の旭川支店「グリーンツーリズム北海道」企画として行いました。道内各地約40カ所で行われ、東川町内のコースは今年初めての企画。保健福祉センターの料理実習室で新そば打ちを体験しました。

滝本宣博さん宅の陶芸工房で思い思いに皿を作り、ソバの種まき、ジャガ芋の植え付け体験などをしました。2回目に来町したのは9月上旬。春にまいたトウモロコシ、枝豆の収穫と試食体験をしました。そして今回は最終回のそば打ち、新そば満喫体験というわけ。

東川町コースは、道内の他コースと違って年間3回の農業体験ツアーという豪華版。

用意したそば粉は、もちろん春に植えて収穫した新そば。製粉に仕立てたばかりのそばを見よう見真似の手つきでそば打ちし、おろしそば、もりそばにして春に手作りしたオリジナル皿で味わいました。



1回目は6月下旬、町内の陶芸家、農協職員の渡辺奈保子さん（22）が今年のおこげ祭り披露した新そば料理「そばガレット」も大好評。秋の味覚を満喫していました。

幸せいばらをきかせる講演会



10月9日、農村環境改善センターで町民いきいき講座「長い人生」より『しあわせな人生』が開かれ、健康に暮らせるコツを学びました。北大大学院医療システム学の前沢政次教授が来町して講演しました。前沢先生は日本プライマリ・ケア学

会長、日本ケアマネジメント学会副理事長などを務め、高齢期医療や在宅ケアなどの専門家。高齢期に直面する介護や認知症の問題をテーマに、安心して暮らせる地域全体の取り組みの必要性などを話しました。

「歩くこと、食べるのが弱り方の目安。立ち上がり、起き上がり、片足立ちが最初に弱ってくる」と毎日の大腰筋トレーニングを紹介。さらに高齢期に症状が進みやすい認知症、物忘れについて話を

30周年の東川消費者協会が記念式典

10月16日、農村環境改善センターで東川消費者協会（林慧子会長）の設立30周年記念式典が行われました。

道消費者協会の木谷洋史専務理事、上川管内消費者協会連合会の柿崎由美子会長、旭川消費者協会の松尾清子会長、松岡市郎町長、浜辺啓町議会議長らも訪れ30周年を祝いました。

林会長は「食の安心・安全、オレオレ詐欺など、その時々暮らしのテーマ解決のため活動をしてきました。安心な生活のため、消費者協会の必要性、重要性に関心を持っていただけたら、重要に活動したい」などとあいさつ。気持ちを新たにしています。



会場には旭川市医師会看護専門学校非常勤講師の菅野龍雄旭川音楽療法研究会事務局長を講師に招き、「健康と音楽」と題して音楽に合わせて行う手と足の軽運動の講演をしました。

旭川市内で約30年間音楽療法を研究

むくむく！ 町内最大トウモロコシ出現

町内の農家に茎丈約4・8メートルの巨大トウモロコシが出現しました。「こんなトウモロコシは見たことない」と近所の方もびっくり仰天。

25区の農業、花本信幸さん（61）方のビニールハウス。約20本が1列に並び、いずれも茎丈は4メートル以上。その茎は黒く、根元近くの外周は10センチ以上ありそうです。花本さんによると「コーンの実も黒い」そうですが、20本のうちまだ2本程度にしか実が入っていません。収穫期には達していない様子。どうやらこれまで見たことがない品種のようです。一体どこから？



花本さんは今年3月、南米ペルーに観光旅行し、その時宿泊したホテルでジュースとポテトチップを食べたそうです。そこにあった生のトウモロコシを少し持ち帰り、自宅のほ場に植えたのだそうです。

「現地ではパープルコーンと呼んでいた。ジュースはとても甘かった」とか。

すっかり育つようにとハウスで大事に育て、肥料もやっただけですが、「南米は土地がやせているから肥料をやらないほうが良かったかな」と出来秋に気をもんでいます。